

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
 ★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
 ☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第50号 2007年7月31日(火)

発行：歴史資料ネットワーク(神戸大学文学部内)

▼出石町日野辺区有文書返却式の様子



▲奥村代表から日野辺区長
に目録の贈呈と文書返却
(2007年6月17日撮影)



▲木村修二氏による区有文書の解説と展示会の様子(2007年6月17日撮影)

目次

巻頭言

河野 未央・・・・・・・・・・2

◆◇2007年度史料ネット総会◇◆

概要 中野 賢治・・・・・・3
 2006年度活動報告・・・・・・4
 2006年度決算報告・・・・・・8
 2007年度活動方針・・・・・・11
 2007年度予算・・・・・・12
 2007年度運営委員・・・・・・13

災害カンパのお願い

能登歴史資料保全ネットワークへの参加経緯と事務局訪問について

松下 正和・・・・・・・・・・14

能登半島地震被災地訪問記

浅利 文子・・・・・・・・・・15

出石町日野辺区有文書返却式

松下 正和・・・・・・・・・・17

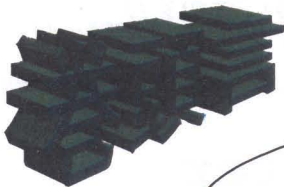
豊岡市出石町日野辺地区区有文書返還式に参加して

森脇 崇文・・・・・・・・・・19

2006年活動日誌・・・・・・・・・・22

歴史学入門講座のお知らせ・・・・・・23

新刊紹介・・・・・・・・・・24



ネットワークの構築と次世代への継承 ～史料ネットの年度更新にあたって～

河野 未央

史料ネット「News Letter」も本号で50号です。「走りながら考える」をモットーとしながら、その言葉通り史料ネットは「走り続けて」きました。その間、様々な課題に直面しましたが、それでも前へ前へと進んでこられたのは、やはり会員の皆様方の温かいご協力・ご理解があつてこそだと思っております。新たな年度を迎える今、事務局の一員としてまずは会員の皆様方へお礼申し上げます。そして今後とも引き続き史料ネットの活動をご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

さて、昨年度の「News Letter」巻頭言を振り返ってみますと、史料ネットの今後を模索する内容が多いことに気づきます。重複しますが、重要な問題であるのもう一度ご紹介しておきます。

ひとつは「予防ネット」立ち上げなど各地で起こっている活動状況をふまえて、史料ネットの「暫定的なセンター的役割」という役割を見なおしてみてもどうか、という前号での松下事務局長の提案です。もし仮に今後各地で災害が起こったとしても、「予防ネット」の存在があれば活動の初動はより早く、的確なものとなるのが期待できます。だからこそ、史料ネットとしてはその「予防ネット」の存在を前提として地域ごとの実情にあわせた、その地域においてよりよいカタチでの史料救出・保全活動が展開できるよう、「各地の「史料ネット」とゆるやかに情報・技術などを相互交換しあう「ネットワーク組織」としての連携」のあり方を模索することが重要となってくるのではないのでしょうか。

もうひとつは「News Letter」48号巻頭言で加藤さんが述べられた「「体験」の共有」の問題です。ここで、加藤さんは「体験」の「伝え手」としてのあり方を問うておられました。私自身、加藤さんのように新たに学び直すようなことを何もしておらず、不勉強さを恥じるばかりですが、でも一方で加藤さんがそのように感じられた背景については、共感するところがあります。それは新たな「体験」の「受け手」＝「伝え手」の存在です。たとえば水損ワークショップに参加していただいた大学生・院生の方々。新たな「体験」の「受け手」は次なる「体験」の「伝え手」でもあります。自らがその

「伝え手」であるという認識をもとに熱心に参加されるその姿には、主催者の一人として、少なからず感銘を受けました。正直なところ、それ以前の段階では、今後史料ネットは「次世代への継承」という問題に大きくつきあたってしまうのではないかと、いうことを多少なりとも危惧していたのですが、どうやら杞憂であったようです。だからこそ、「何を、どう伝えるのか」。

このようなことを念頭においた今年度活動方針案は、総会で承認いただきましたが、引き続き史料ネットの「あるべき姿」としての議論は必要であると思います。個人的には会員の皆様からどんどん意見をいただくことにより、“News Letter”誌面で活発に議論が展開できればと考えています。今後の史料ネットのあり方について、ぜひとも皆様方からのご投稿をお待ちしております。

(このの・みお／史料ネット事務局員)

◆◇総会特集◇◆

2007年度 歴史資料ネットワーク総会

【総会の記録】

- ・日時 2007年5月20日（日）午前10時半～
- ・場所 尼崎市中央公民館（尼崎市西難波町6-14-34）

歴史資料ネットワークの2007年度総会が、2007年5月20日に尼崎市中央公民館で行われた。藤田明良副代表の開会の辞に続き、議長として木村修二氏、書記として加藤宏文氏と中野が選出され、議長によって個人会員数が162名、出席者数が15名、議決権行使者数が12名、委任状提出者数が46名であることが報告された。

次いで議案の審議に入った。第1号議案として2006年度の活動報告が松下正和事務局長から5項目にわたって提示された。今年度は特に有償ボランティア制度や大学巡回水損史料ワークショップなど、新しい試みが行われたことや、3月に発生した能登半島地震、あるいは急速に進みつつある指定管理者制度への対応などについても報告がなされた。続けて第2号議案である2006年度決算の報告と、第3号議案の監査報告が合わせて行われ、質疑応答を経て出席者の議決によって承認された。第4号議案として2007年度活動方針案、第5号議案として2007年度予算案が提示され、特に活動方針案ではこれまでの活動を継続しつつ、新たな制度や取り組みを行うこと、かつこれまでの活動の総括を視野に入れることといった活動の多角化が示された。質疑応答では、水損史料ワークショップの位置づけや、全国的な人的ネットワークの構築を史料ネットとしてどのように行っていくかというビジョンなど、様々な論点が議論された。また予算案の報告と合わせて、予算案が2007年5月から2007年5月までの13ヶ月分で編成されていること、それは来年度以降の総会を6月に恒常化したいという事務局の提案を背景にしていることが提示され、活動方針案・予算案とともに総会の開催時期の恒常化も議決にかけられ、承認された。最後に第6号議案として運営委員の選出が行われた。新運営委員の紹介の後、議長・書記の解任が行われ、奥村弘代表による閉会の辞をもって、総会は終了した。

(文責・中野賢治)

2006 年度活動報告

1. 被災史料の整理や被災地での調査活動

院生・学生・市民などのボランティアにより、事務局保管分の2004年台風23号水損史料の整理が進められた。神戸大学では計3回の整理が実施され、のべ23人が参加した。今年度は、出石町（現豊岡市）日野辺区有文書の整理作業をおこない、仮目録を作成した（約1000点）。なお、この整理作業に関して豊岡市から史料ネットに補助金が支給された。他には、乾燥済みの舞鶴市上東区

有文書を返却
することがで
きた。その際

第33回：2006年12月25日 参加者12名（出石町日野辺区有文書仮整理）

第34回：2007年2月4日 参加者5名（同上）

第35回：2007年3月19日 参加者6名（同上）

に、巡回調査活動に協力をいただいた舞鶴地方史研究会（加藤晃会長）宛てに感謝状を贈呈した。

また、阪神・淡路大震災時に巡回調査した川西市西野家文書を、同市社会教育課と協力して川西市文化財資料館へ搬入した。

今年度から被災史料整理活動に際して有償ボランティア制度を試行的に導入した。

2. 市民や自治体との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み

今年度も4
回の歴史講座を
開催することが
できなかったが、
昨年にひきつづ
き兵庫区と連携

主催◎、共催○、後援●、参加△ 企画

◎中世市民講座「兵庫区歴史講演会」

2007年2月24日（日）13時～16時 @兵庫公会堂 参加約200名

講演：藤田明良氏（天理大学）「日本国王の港―日明貿易と兵庫津―」、主
催＝歴史資料ネットワーク・兵庫区民まちづくり会議・兵庫区役所、協力＝
神戸市教委

し、上記の講座を開催することができた。これまでクローズアップされることのなかった室町の兵庫津の具体像にせまる報告の新規性と、二胡演奏とのコラボレーションなどの新趣向もあり、参加者が定員の200名を越え盛況裡に終わった。なお、昨年度の中世市民講座の内容をふまえたブックレット『地域社会からみた『源平合戦』―福原京と生田森・一の谷合戦―』（歴史資料ネットワーク編）が2007年

5月末に岩田書院から刊行される予定となっている。

近年、文化財行政部門にも導入が急速に進んでいる指定管理者制度についての情報収集を行った。とりわけ、芦屋市立美術館の「直営」方式への移行や明石市立文化博物館に関する現状と課題について、両博物館と、芦屋市立美術館の受け皿となるNPO芦屋ミュージア

◎第2回「歴史系博物館と指定管理者制度」勉強会

2006年12月17日（日）10時～14時半@明石市立文化博物館 参加12名

報告：山下俊郎氏（明石市立文化博物館）、明尾圭造氏（芦屋市立美術館）

コメント：大村敬通氏（小野市立好古館）、柿木央久氏（NPO法人芦屋ミュージアム・マネジメント）、佐々木和子（神戸大学文学部地域連携センター）

◎第2回「地域史卒論報告会」

2007年3月18日（日）13時半～16時半@兵庫勤労市民センター 参加27名

ム・マネジメントのメンバーを交えて勉強会を行った。

また、昨年度からの試みである、神戸史学会との共同企画「地域史卒論報告会」の2回目を開催することができた。これは、大学院には進学せず一般企業などへ就職し、かつ主に兵庫県をフィールドとする地域史を卒論のテーマにした学生が市民の前で報告を行うという企画で、歴史系の大学で勉強した学生が、社会に出た後も地域遺産や史料を守る活動が続けるきっかけづくりを目的としている。今回は、前回のように一部の大学にかたよることなく複数の大学からの参加と、大学院進学者以外の卒業生の参加を得て、本企画の目的を達成することができた。さらに、下記の催しに協力を行った。

市民講座以外の主催◎、共催○、後援●、参加△ 企画

●第8回「火垂るの墓を歩く会」

2006年8月6日・8日 9時半～12時 主催＝「火垂るの墓を歩く会」実行委員会

3. 震災記録保存と地域資料保存

2006年6月18日の総会に合わせて水損史料保全ワークショップ「よみがえれ水損史料～水害に備えて」を開催し、史料ネットが2004年度から本格的にスタートさせた水損史料の吸水乾燥法について実習をおこなった。

さらに今年度も「シンポジウム地域資料の保存と活用を考える」実行委員会に協力し、第8回から第10回までの準備研究会を共催した。

今年度から、各大学を巡回する水損史料ワークショップを行うことにした。これは実際に史料を取り扱うことが多い歴史系の学科の学部生・院生を対象に、水損史料の乾燥法や史料ネット活動の周知をはかるために開催したものである。今回は若手運営委員や所属研究室の協力をいただいた。2回とも多くの学生が参加し、おおむね好評であった。ワークショップに参加した学生が被災史料整理活動の手伝いに参加するなど、史料ネット活動の裾野を広げ、次世代へ継承する点においても効果がみられた。

主催◎、共催○、後援●、参加△ 企画

◎水損史料保全ワークショップ「よみがえれ水損史料～水害に備えて」

2006年6月18日(日) 14時～17時 @西宮市大学交流センター 参加17名

報告：松下正和(史料ネット事務局長)「水損史料の処置方法について」

◎大学巡回 水損史料ワークショップ

2006年11月8日(水) 18時半～ @大阪大学文学部棟2階 参加15名

実演：松下正和・加藤宏文・浅利文子、協力：大阪大学文学部村田路人研究室

2006年12月14日(木) 16時半～ @大阪市立大学経済研究棟2階 参加12名

実演：河野未央・加藤宏文、協力：大阪市立大学塚田孝研究室

○第8回地域資料シンポ準備研究会

2006年10月23日(月) 18時～20時半 @難波市民学習センター第二研修室

報告：佐賀朝「地域資料シンポジウム実行委員会の活動について」、コメント：藤隆宏氏(和歌山県立文書館)

○大阪歴科協 11月例会「地域における歴史系博物館の役割—指定管理者制度の導入をめぐる」

2006年11月4日(土) 13:30～17:00 @梅田東学習ルーム

問題提起：八木滋氏(大阪歴科協、大阪歴史博物館)「歴史系博物館の現状と問題点—指定管理者制度導入を中心に」

コメント：大國正美(神戸深江生活文化史料館、史料ネット)「神戸・阪神地域での取り組みから考える」

久留島浩氏 (国立歴史民俗博物館) 「歴史系博物館をめぐる日本の現状を考える」

○第9回地域資料シンポ準備研究会

2006年12月15日(金) 18時半～21時 @大阪市立弁天町市民学習センター

報告: 藤吉圭二氏 (高野山大学) 「デジタル技術を利用した歴史資料活用の試み—高野山大学を事例として—」

○第10回地域資料シンポ準備研究会

2007年3月7日(水) 18時～20時半 @大阪市中央公会堂第6会議室

報告: 小林隆氏 (彦根市史編さん室) 「滋賀県における公文書の保存・活用に向けた取り組み—その現状と課題—」

共催: 京都滋賀における歴史資料保存研究会 (京都民科歴史部会サブG) ・桃山学院大学地域資料研究会

4. 災害対策

2007年3月に発生した能登半島地震への対策のために、災害発生直後より情報収集にあたり、ともに、主に石川県の被災地の文化財関係機関・報道機関に対して被災資料の現状確認・保全依頼のFAXを行った。4月に発足した現地組織である「能登歴史資料保全ネットワーク」に支援を申し出た。

また、各地のネットワークや行政機関とも協力し、水損史料の取扱に関する技術の習得や、アーキビストや司書への水損史料の処置方法に関する研修を行った。

今年度も各地で大規模災害に遭う前に史料保全のネットワーク化をはかる動きがひきつづき多く見られたのが特徴的であった。福島では「ふくしま文化遺産保存ネットワーク」が、高知では土佐山内家宝物資料館が

「歴史資料保存相談窓口」(略称資料保存119番)が開設し、山形では「山形文化遺産防災ネットワーク」の設立に向けて準備がはじまった。史料ネットではこれらの「予防

△第1回人と文化遺産保存継承ミーティング・文化財防災サミットIN山形

2006年10月20日(金) @東北芸術工科大学

報告: 松下正和「歴史資料ネットワークの地域遺産保全活動」他

2006年10月21日(土) @同上

報告: 奥村弘「大規模自然災害と地域歴史遺産保全～阪神淡路大震災から現在までの歩み」他

主催: 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター

△平成18年度滋賀県図書館員専門講座(後期)

2007年1月26日(金) 14時45分～16時15分 @滋賀県立図書館

報告: 松下正和「地域資料の保存と利用の現場から」

△第3回「文化財の防災計画に関する研究会 震災から美術工芸品をまもる」

2007年1月29日(月) @東京文化財研究所

報告: 奥村弘

主催=東京文化財研究所修復技術部

△第2回人と文化遺産保存継承ミーティング

テーマ: 「災害直後と継続的な救済活動および災害前の活動の実際を知る」

2007年3月9日(金)・10日(土) @東北芸術工科大学

参加: 松下正和・河野未央

△第14回近畿府県公文書館等実務担当者研究会

2007年3月16日(金) 15時～17時

実演: 松下正和「水損資料の処置方法について」 @京都府立総合資料館

ネット」とも連絡を密に取り合い、シンポジウムなどで提言を行った。

5. 組織と運営

今年度の事務局は、5名の事務局員にて業務を行った。運営委員会は第46回（7月10日）から第55回（5月15日）までの計10回を開催した。

今年度の運営委員会は委員の出席率もよく、とりわけ若手委員の活躍が目立った年であり、昨年度の改善の要望が反映されたものとなった。

2006年度 運営委員・事務局・会計監査委員一覧

＜運営委員会＞浅利文子（日本史研究会）・大国正美（神戸史学会）・奥村弘（神戸大学史学研究会）・加藤宏文（個人会員からの選出）・佐賀朝（大阪歴史科学協議会）・立野康志郎（大阪歴史科学協議会）・中西威晴（大阪歴史科学協議会）・中野賢治（大阪歴史学会）・藤田明良（個人会員からの選出）・松下正和（京都民科歴史部会）・吉村真樹子（大阪歴史学会）

＜事務局＞奥村弘（代表）・藤田明良（副代表）・松下正和（事務局長）・人見佐知子（事務局員）・河野未央（事務局員）・堀田昌宏（事務局員）・浅利文子（事務局員）・板垣貴志（事務局員）

＜会計監査委員＞山田修士・添田仁

今年度はホームページの更新が滞った。ニュースレターは4回（2006年8月4日第46号、2006年12月1日第47号、2007年

3月1日第48号、2007年5月1日第49号）発行した。

この1年間の書籍販売実績は、計89,311円（『神戸と平家』41冊、シンボ記録集4冊、『平家と福原京の時代』15冊）の売り上げであった。4月30日段階の会員数は学会会員11団体、個人会員145名

	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
合計	218	274	308	309	310
個人	99	126	140	140	145
学生・院生	18	20	23	21	17
サポーター	29	45	51	56	55
ニュースレター	64	75	86	81	82
学会	8	8	8	11	11
新規入会		56	36	14	5
退会	0	2	3	5	4

（昨年比+5）、学生・院生会員17名（同比-4）、サポーター55名（同比-1）、ニュースレター購読82名（同比+1）の計310名（同比+1）であった。

また、各学会の会誌上や例会、各地史料ネットの出版物などにおいて、史料ネットの活動紹介やカンパ呼びかけの協力を賜った。詳細は下記の通りである。

＜各学会会員・各地史料ネットの協力＞

・河野未央「水害からの資料保全活動について—2004年の台風23号被害を中心に—」（矢田俊文編『新潟県中越地震と文化財・歴史資料—1年間のとりくみ—』新潟大学人文学部地域文化連携センター、2006年3月）

・松下正和「2004年台風23号による水損歴史資料の保全・修復活動について」他（敦賀短期大学地域交流センター編『史料の被災と救済・保存～福井史料ネットワーク活動記録』同発行、2006年11月）

・河野未央「歴史資料ネットワークの取り組み」（文化財保存修復学会編『私たちの文化財を救え!!』クバプロ、2007年1月）

2006 年度決算報告(自 2006 年 5 月 1 日 至 2007 年 4 月 30 日)

◎2006 年度一般会計予算

収入の部	
前年度繰越金	¥1,458,943
会費収入	¥769,550
○学会会員	¥68,500
○個人会員（一般）	¥490,000
○個人会員（学生）	¥36,750
○サポーター	¥117,600
○ニューズレター	¥56,700
○2005 年度中会費先納分	
寄付金	
市民講座資料代	¥100,000
書籍・記録集・総括集売上	¥200,000
2003 年度会費未納分	¥27,500
2004 年度会費未納分	¥194,000
2005 年度会費未納分	¥397,000
雑収入	
合計	¥3,147,493

◎2006 年度一般会計決算

収入の部	
前年度繰越金	¥1,458,943
会費収入	¥663,500
○学会会員	¥47,500
○個人会員（一般）	¥450,000
○個人会員（学生）	¥10,000
○サポーター	¥87,000
○ニューズレター	¥41,000
○2005 年度中会費先納分	¥28,000
寄付金	¥24,300
市民講座資料代	¥24,500
書籍・記録集・総括集売上	¥92,931
2003 年度会費未納分	¥4,000
2004 年度会費未納分	¥40,500
2005 年度会費未納分	¥129,000
雑収入	¥39,705
豊岡市からの旅費補助	¥165,000
合計	¥2,642,379

支出の部		支出の部	
事務局行動費	¥390,000	事務局行動費	¥342,104
運営委員会運営費	¥40,000	運営委員会運営費	¥34,080
事務局通信・発送費	¥10,000	事務局通信・発送費	¥13,400
事務局臨時経費		事務局臨時経費	¥9,155
総会・シンポ諸経費	¥50,000	総会・シンポ諸経費	¥60,450
市民講座諸経費	¥105,000	市民講座諸経費	¥31,261
その他企画諸経費	¥50,000	その他企画諸経費	¥20,949
史料整理経費	¥100,000	史料整理経費	¥31,630
ニューズレター印刷代	¥15,000	ニューズレター印刷代	¥1,260
ニューズレター郵送代	¥175,000	ニューズレター郵送代	¥186,810
ニューズレター発送バイト代	¥80,000	ニューズレター発送バイト代	¥22,100
総括集印刷代	¥30,000	総括集印刷代	¥0
図書雑誌購入費	¥300,000	図書雑誌購入費	¥4,870
備品消耗品代	¥10,000	備品消耗品代	¥27,826
ブックレット出版企画	¥50,000	ブックレット出版企画	¥110,240
福井カンパ支出	¥5,000	福井カンパ支出	¥5,000
新潟カンパ支出	¥40,000	新潟カンパ支出	¥40,000
愛媛カンパ支出		愛媛カンパ支出	¥5,000
予備費	¥1,597,493	次年度繰越金	¥1,688,244
緊急対応基金へ	¥100,000	緊急対応基金へ	¥0
		ボランティア保険	¥8,000
合計	¥3,147,493	合計	¥2,642,379

2006 年度 主な勘定科目別の明細〈一般会計〉

(収入の部)

■会費収入

- ・学会会員…大阪歴史科学協議会・大阪歴史学会・京都民科歴史部会・神戸史学会・神戸女子大学史学会・神戸大学史学研究会・名古屋歴史科学研究会・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会・歴史学研究会 11 学会。会費納入があったのは、歴史科学協議会 (5,000 円)・歴史教育者協議会 (5,000 円)・日本史研究会 (10,000 円)・大阪歴史科学協議会 (5,000 円)・大阪歴史学会 (10,000 円)・歴史学研究会 (12,500 円) で計 47,500 円 (2005 年度は 67,500 円)。
- ・今年度は年度開始にあたって滞納分も含めた会費督促を行ったため、2005 年度以前未納だった会費について納入があったが、依然納入状況はよくない。来年度は会員動向調査を行って、会員把握を徹底するとともに、年度内最終号のニュースレターを会計年度末までに送付し、納入状況を会員に告知するなど、会費納入率の改善に努めたい。

■寄付金…史料ネット会計への寄付。

■市民講座資料代…今年度の市民講座は、中世講座 (2/24) のみ。ネットが資料印刷を担当し、兵庫区役所から資料代収入を得た (20,000 円)。4,500 円は総会資料代 (6/18)

■書籍・記録集・総括集売上

- ・書籍…歴史資料ネットワーク編『神戸と平家』、『平家と福原京の時代』の売上
- ・記録集…阪神大震災対策歴史学会連絡会・歴史資料保全情報ネットワーク編『阪神・淡路大震災 歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム 記録集』1・2の売上
- ・総括集…『歴史資料ネットワーク活動報告書』の売上
- ・市民講座の開催などによる書籍販売の機会が少なかったため、大幅な売上が見込めなかった。

■雑収入…郵便口座解約、利子など

■旅費助成…豊岡市から補助金をうける、07 年度に緊急対応基金へ繰り入れ

(支出の部)

■事務局行動費…昨年度に引き続き、大学院生等に事務局の仕事を依頼した。事務局員の行動費として 1 人 10,000 円/月 (昨年度未支払い分については 1 人 5,000 円/月) を支給した。支給状況は河野 2006 年 2 月～2007 年 4 月、堀田 2006 年 2 月～2007 年 4 月、浅利 2006 年 4 月、2007 年 1～4 月。松下分は交通費のみ支給。

■事務局通信・発送費…運営委員会議事録、書籍等発送代

■事務局臨時経費…振込手数料、通訳アルバイト代など

■総会・シンポ諸経費…会場費、告知用はがき代、スタッフ昼食費等

■市民講座諸経費…中世講座・卒論報告会の経費。会場費・スタッフ昼食費等

■その他企画諸経費…博物館問題シンポ (12/17) 交通費・謝礼、歴科協地域シンポ (12/9) 分担金、阪大水損ワークショップ備品等

■史料整理経費…今年度は史料整理ボランティアに有償ボランティア制度を導入。しかし、参加者からの辞退が多く、交通費・昼食代等実費のみの支払いが多かった

■ニュースレター印刷代・郵送代…用紙の寄付があったため印刷代は昨年度に引き続き少額ですんだ。郵送は 4 回

- 総括集印刷代…今年度は増刷なし。
- 図書雑誌購入費…福井ネットの書籍を購入
- 備品消耗品代…封筒（NL発送用等）・領収書、ファイル等の事務用品代
- ブックレット出版企画…岩田から出版予定である『地域社会からみた『源平合戦』—福原京と生田森・一の谷合戦』の編集などにかかった経費
- 福井カンパ支出…2005年度未送金分。2006年6月7日に送金。
- 新潟カンパ支出…2005年度未送金分。2006年6月7日に送金。
- 愛媛カンパ支出…資料集発行のためのカンパ
- ボランティア保険 毎年発生する経費のため、一般会計に計上した。

◎2006 年度基金予算

◎2006 年度基金決算

収入の部		収入の部	
災害前年度繰越金	¥401,453	災害前年度繰越金	¥401,453
一般会計より補填	¥100,000	一般会計より補填	¥0
合計	¥501,453	合計	¥401,453

支出の部		支出の部	
ボランティア保険	¥15,000	ボランティア保険	¥0
その他備品消耗品		その他備品消耗品	¥8,004
次年度繰越金	¥486,453	次年度繰越金	¥393,449
合計	¥501,453	合計	¥401,453

2006 年度監査報告

*紙面の都合により、次号掲載となります。ご了承ください。

2007 年度活動方針

1. 被災史料の整理や被災地での調査活動

阪神・淡路大震災や 2004 年台風 23 号の際の救出活動で保全された歴史資料のうち、事務局保管の未整理分について、引き続き院生・学生・市民などによるボランティアを中心にした整理作業を進める。今年度も、継続的な整理活動を行うために必要なボランティアリーダーへの謝礼や、有償ボランティア制度の運用について検討を行う。

また、被災地の自治体・大学・地域史研究団体などと協力しながら、過去に救出した被災史料の現状を把握し、今後の活用をはかる。

2. 市民や自治体との連携を重視した地域史研究や地域遺産保存・活用の取り組み

歴史研究の成果や地域遺産の活用に関する市民と研究者の交流の場としての「歴史講座」を今年度も実施する。今年度は、レスキューした文書の活用状況について検証する機会をもつ。また関係諸学会・大学や研究機関等とも連携し、地域史や史料保存・活用などの研究成果の蓄積をめざす。さらに、地域史の掘り起こしや地域遺産の活用をはじめ、地域の歴史・文化に関わるさまざまな市民・自治体の取り組みへの積極的な連携や支援を継続していく。2005 年度よりスタートした「地域史卒論報告会」を引き続き開催する。

また博物館・資史料館存続問題や指定管理者制度導入など、地域資料をとりまく新たな状況に関する情報収集と対応につとめる。

3. 震災記録保存と地域資料保存

阪神・淡路大震災の資料保存と記録化・活用に関する研究会を今年度も引き続き開催し、「地域資料の保存と活用を考える」研究会に積極的に協力し、京都民科歴史部会のサブグループ「京都・滋賀における歴史資料の保存・活用研究会」とも連携するなど、関係団体や市民との連携と意見交流をはかる。

また人と防災未来センターをはじめ、災害史などこの分野に関する研究会や展示企画への参加や見学を行うとともに、資料保存の必要性について行政への働きかけを続ける。

昨年度よりスタートした「水損史料出張ワークショップ」を、大学の史学科や行政機関に対しておこない、被災資料の取扱についてのノウハウや保全意識の向上に資する。

4. 災害対策

山陰・愛媛・宮城・福井・新潟・宮崎・岡山・福島・山形・高知・石川などの各史料（資料）ネットをはじめ、各地の関係機関・団体との交流と連携を継続する。

また、東南海大地震のような大規模地震や、具体的な被害想定とその対策の研究と準備を関西で引き続き行う。大規模災害に遭う前にあらかじめ史料保全のためのネットワーク化をはかる「予防ネット」作りを援助し、災害発生時に動きやすい組織作りのあり方についても提言する。各自治体の地域防災計画で地域遺産の保全をはかるなどのほたらきかけを行う。

さらに、新たに大規模災害が発生した場合には、情報把握や関係機関・団体・研究者の連絡にあたり、臨機応変に緊急対応基金を活用して救援体制の立ち上げを積極的に支援する。

また 2004 年度以来対応にあたっている水害対策についてのまとめも行う。

5. 組織と運営

ホームページによる各方面への情報発信の充実を引き続きはかる。ニュースレターは定期刊行を維持するとともに、内容の充実に努める。また、メールニュースの配信を維持し、企画や活動のアウトラインをすばやく伝える。既発行の書籍・報告集については、引き続き頒布努力をおこなう。さらにニュースレターの購読者の会員加入を呼びかけるなど、会員やサポーターの拡大に積極的に取り組む。

関係諸学会との連携をより一層深め、企画の共催や後援を行い、その成果を各学会の誌面上に反映させる。

2007 年度予算（自 2007 年 5 月 1 日 至 2008 年 5 月 30 日）

◎2007 年度 一般会計予算案

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	¥1,688,244	事務局員アルバイト代	¥624,000
会費収入	¥784,550	事務局行動費	¥140,000
○学会会員	¥68,500	運営委員会運営費	¥40,000
○個人会員（一般）	¥490,000	事務局通信・発送費	¥10,000
○個人会員（学生）	¥36,750	総会・シンポ諸経費	¥50,000
○サポーター	¥117,600	市民講座諸経費	¥50,000
○ニュースレター	¥56,700	その他企画諸経費	¥30,000
2006 年度中会費先納分	¥15,000	史料整理経費	¥50,000
市民講座資料代	¥50,000	ニュースレター印刷代	¥15,000
書籍・記録集・総括集売上	¥200,000	ニュースレター郵送代	¥175,000
2003 年度会費未納分	¥23,500	ニュースレター発送バイト代	¥40,000
2004 年度会費未納分	¥154,000	総括集印刷代	¥30,000
2005 年度会費未納分	¥270,500	図書雑誌購入費	¥150,000
2006 年度会費未納分	¥123,550	備品消耗品代	¥25,000
		ブックレット出版企画	¥100,000
		予備費	¥1,400,344
		緊急対応基金へ	¥265,000
		ボランティア保険	¥10,000
合計	¥3,294,344	合計	¥3,294,344

2007 年度予算 主な勘定科目別の明細〈一般会計〉

（収入の部）

■会費収入・未納分…回収率を 7 割として計上。なお回収率は平均納入額から算出した。

（支出の部）

■事務局員アルバイト代…（月・水・金）1000 円 * 4 h * 12 d * 13 m

■事務局行動費…10,000 円 * 13 m（河野） / 10,000 円（松下交通費）

■総括集印刷代…2006 年度予算に準じる

■緊急対応基金へ…豊岡市からの旅費助成（165,000 円）+ 06 年度繰り入れ予定だった 100,000 円

◎2007 年度 緊急対応基金予算案

収入		支出	
前年度繰越金	¥393, 449	次年度繰越金	¥658, 449
一般会計より	¥265, 000		
合計	¥658, 449	合計	¥658, 449

2007 年度運営委員・会計監査委員

<運営委員> (五十音順、敬称略)

- 大阪歴史科学協議会：佐賀朝・立野康志郎・中西威晴
- 大阪歴史学会：中野賢治
- 京都民科歴史部会：松下正和
- 神戸史学会：大国正美
- 神戸女子大学史学会：(欠員)
- 神戸大学史学研究会：奥村弘
- 日本史研究会：浅利文子
- 個人会員(2名)：藤田明良・森脇崇文

<会計監査委員 2名> 山田修士・加藤宏文

能登半島沖地震・台風4号・新潟県中越沖地震

被災史料救出活動支援募金 のお願い

今年に入ってからのもつぱら災害では各地に多くの被害がでています。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。古文書などの歴史資料や民具、絵画、石造建築物、その他様々な地域歴史遺産については、まだ正確な被害報告を把握していませんが、相当な被害が及んでいることが予想されます。わたしたち歴史資料ネットワークは、現地で活動をすすめている歴史関係者、地元の市民の方々と協議し、支援のセンターとして、全国からの募金のとりまとめにあたっています。

つきましては、被災した地域歴史遺産の救出・保全活動の必要性について是非ともご理解を賜り、現地の地域歴史遺産保全の活動を支えるための募金をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

■歴史資料ネットワーク口座(郵便振替)

口座番号：00930-1-53945

加入者名：歴史資料ネットワーク

※振替用紙に「災害カンパ」とご記入ください。

能登歴史資料保全ネットワークへの参加経緯と事務局訪問について

松下 正和

2007年3月25日、能登半島沖を震源とする地震が発生しました。石川県の七尾市・輪島市・穴水町で最大震度6強の揺れが観測され、同地区を中心に多くの住家被害が発生しました。

史料ネット事務局は、翌日に「能登半島地震による被災地の歴史資料の取扱について（お願い）」と題する文書をFAXにて石川県教育委員会に送付し、文化財関係機関や被災地住民に対して被災資料保全について周知をはかっていただくようお願いいたしました。その後も、事務局ではマスコミ報道の被災情報と収集



▲能登巡見の様子

するとともに、福井史料ネットワーク、新潟歴史資料救済ネットワーク、文化財保存修復学会のメンバーから被災情報をいただきながら、支援の方法について検討をおこなっていました。

4月12日に、石川県教育委員会事務局文化財課より、被災文化財の救出支援活動に対して協力を申し出た団体に対し、「古文書、美術品等の保護、修復等を希望する被災者と、文化財の保護、修復等の専門知識を有する、大学等の民間支援団体とを結ぶ、ネットワーク設立について仲介をさせていただきたい」、ついてはこのネットワーク（仮称：能登歴史資料保全ネットワーク）への参加の可否について回答してほしいという旨のFAXをうけました。「石川県は、市町と協力しながら、被災者とネットワークとの情報交換が円滑に行われるよう、調整にあたりたいと考えています」とあったため、史料ネットは、能登歴史資料保全ネットワーク（仮称）に「救援資金の提供」という活動で「参加できる」と回答しました。その際に、史料ネットとしては、募金活動の支援をすすめるために、現地の具体的状況を全国的に伝える必要があること、能登歴史資料保全ネットワーク（仮称）との協議を進めたいので日程調整をしてほしい旨をFAXで県教委に返信しました。

4月20日に、「能登歴史資料保全ネットワーク」（代表＝田川捷一・能登文化財保護連絡協議会長、当面の連絡先＝七尾市馬出町の市史編纂室内、電話 0767-53-8437 FAX0767-53-5194）が発足したことを新聞報道で知りました。

発足後の現地での活動状況を知るために、5月21日に石川県教育委員会に問い合わせ、「能登半島地震 支援申出団体一覧」リストをいただきました。能登ネットに参加している団体は、能登文化財保護連絡協議会、金沢学院大学美術文化学部文化財学科、文化

財保存修復学会、能登半島地震被災歴史資料を救援する金沢大学の会（略称：能登資料救援会）と歴史資料ネットワークの計5団体です。また、わたしたちは県教委から事務局長の櫻井憲弘さんを紹介していただき、活動状況について直接お話をうかがうことにしました。その結果、現地の案内も含めて快く引き受けてくださり、6月14日に七尾市市史編さん室内にある事務局を訪問することとなりました。

14日当日、奥村弘史料ネット代表と河野未央事務局員・浅利文子運営委員と松下の計4名で能登歴史資料保全ネットワーク事務局を訪問しました。午前中に櫻井事務局長から同ネットの機構とこれまでの活動についてうかがいました。桜井さんのお話によると、5月の連休中に相談窓口を設置したところ11件の相談があったそうで、連休明けに早速被災歴史資料に関する診断チームを結成し、専門家の派遣等により古文書、美術工芸品、漆器、民具などを診断することにしたそうです。全体で、約30件のレスキュー成果があったとのことでした。史料ネットからは、地震災害のたびに家屋解体処理が早くなっているが、そのような家屋解体時こそ歴史資料が失われる危険が大きいので、注意が必要であることをお伝えしました。史料ネットとしては、今後同ネット事務局の活動を支えるにあたり、レスキュー件数に比して事務局を構成する人数が少ないことなどを考慮し、金銭的支援をおこないたいと考えています。

午後からは、輪島市門前町に向かいました。元輪島市教育委員会の砂上正夫氏に門前町の被害状況をご案内いただきました。詳しくはあとの浅利報告をご覧ください。

夕方には金沢市内で、金沢大学の歴史関係者のみなさんと懇談の場をもち、被災時の史料調査の方法について情報交換をしました。能登歴史資料保全ネットワークの活動は現在も進行中です。同ネットに対する募金など皆様からのご支援をひきつづきお願いいたします。

（まつした・まさかず／史料ネット事務局長）

能登半島地震被災地訪問記

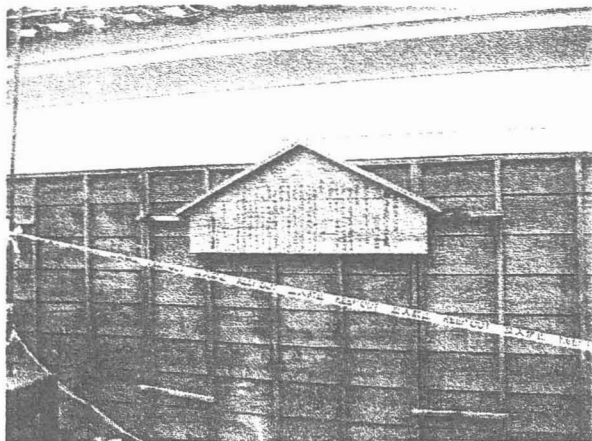
浅利 文子

私は、歴史資料ネットワーク運営委員として同ネット事務局員の方々と共に、輪島市門前町（以下、門前町と称す）を訪問した。門前町は、2007年3月25日に起こった能登半島地震で震度6強を記録し、被害が一番甚大であった地域である。町の中心部には総持寺祖院があり、町から少し離れた門前町内黒島町（以下、黒島町と称す）は北前船で栄えた地域で、県指定文化財である角海家をはじめとし古い町並みが残されている。私たちは、文化保護指導員

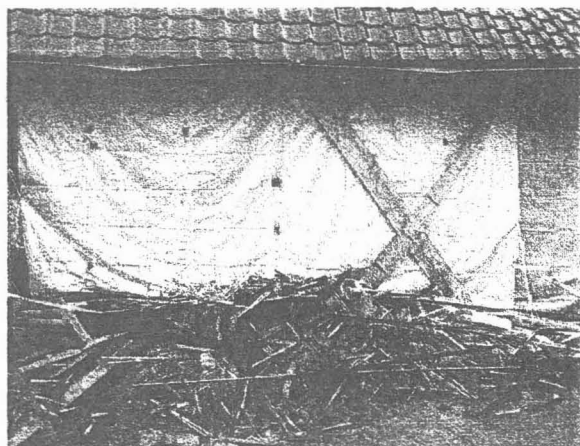
である砂上さんに門前町の被災現場とくに総持寺祖院とその周辺地域、そして黒島町を案内していただいた。能登半島地震被災地訪問記として、簡単に被災地の現状報告とその感想をのべてみたい。

まず、私たちは総持寺祖院を訪れた。総持寺祖院の被害は尋常ではなかった。山門は沈み、両回廊の屋根に軒が食い込んでいた。経蔵の内部の柱がはずれ、床にはヒビが走っている。法堂は複雑に傾き、木組のホゾが外れていた。被害の大きさに驚くあまり呆然と立ちつくすしかなかった。総持寺祖院前の通りは、すでに更地にされているところもあり、今まさに解体工事が行われようとしていた。目前で古い家屋が解体され、それをどうすることもできないまま、私たちは黒島町へと移動した。

▼ 視察時の角海家



黒島町は、門前町の中心部から車で10分程距離にある、海岸沿いの集落である。国道から一筋奥の道へ入ると古い町並みがある。角海家の住宅の被害状況を視察した。角海家は「幕末から、汽船や鉄道が出現する明治期までの間、活躍した船問屋」であり、角海家の住宅は、「典型的な船問屋形式の豪壮な建築」である（輪島市WEBより）。写真は

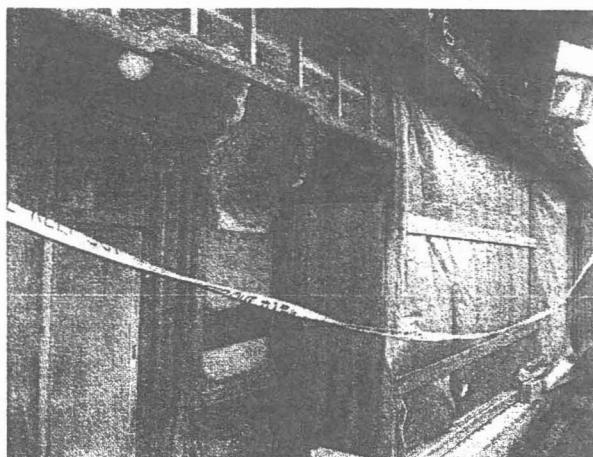


▲側面からみた角海家

黒島町視察時にとったものである。道沿いの塀の板の部分ははがれ、塀がゆがんでしまっている。これを目にしたとき、一同言葉を失ってしまった。総持寺視察の時もそうであるが、とにかく被害は甚大であった。黒島町の景観を形成する家々の中には、家屋の取り壊しを命じる赤い紙が貼られているものもあった。

震災以前、黒島町は景観保全の為、重要伝統的建造物群保存地区指定への申請手続

きを行っていた。しかし、地震により申請の手続きが滞っている状態であるという。総持寺祖院、角海家住宅などのように自治体の文化財指定を受けている場合、修復費補助を受けることができる。しかし、黒島町の古い町並みを形成する一般の家屋は、文化財指定を受けていない。そのため、建造物や古文書などのレスキュー活動は、所有者もしくは所蔵者の自発性にたよるところであり、保全への活動が必ずしも行えない。これら家屋の修繕費は、ほとんど個人負担となるので、黒島町の住民総意でもって町並みを保全しなければ、震災前の町並



▲黒島町の民家

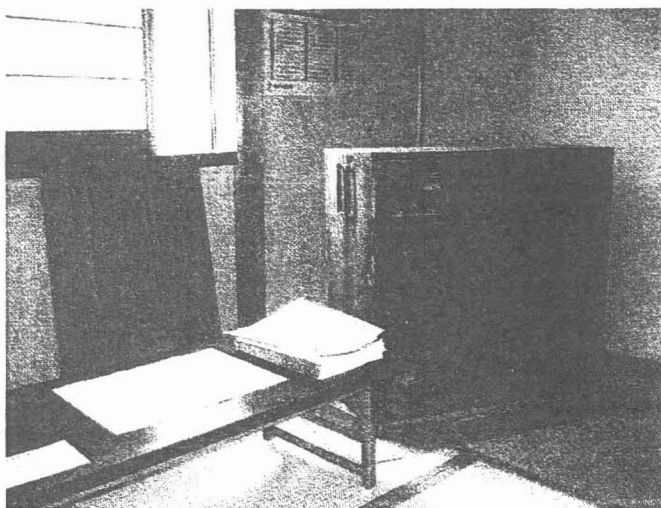
みへと戻すことは困難である。被害拡大防止のための家屋解体作業が猛スピードで進行する中で、黒島町の景観を維持するためには、地域住民の意識、輪島市・県そして大学の緊密な連携が必要不可欠であると強く感じた。

先日、金沢大学が門前町や県文化財課と連携に向け、協議を行ったという知らせを聞いた。これら団体とさらには能登歴史資料保全ネットワークが緊密に連携し、今後門前町の歴史的資料・文化財保全に向けて、一刻も早く活動を展開することを希望してやまない。

（あさり・あやこ／史料ネット運営委員）

出石町日野辺区有文書のレスキューから返却までの経緯について

出石町日野辺区有文書は、日野辺地区（旧日野辺村）の近世から近代現代にいたるまでの区有文書・自治会文書です。2004年10月発生の台風23号による出石川の増水により、出石町日野辺公民館にて保管されていた同区有文書が水損しました。歴史資料ネットワークは、同年11月に、出石町の被災史料巡回調査を実施した際にこれらの水損区有文書を発見・レスキューしました。2005年3月まで（株）西宮冷蔵による冷凍保管スペースの無償提供をいただき、水損史料を冷凍保管することができました。同月から兵庫県教育委員会の斡旋により、滋賀県立安土城考古博物館・兵庫県教育委員会（埋蔵文化財調査事務所魚住分館）・神戸市教育委員会（神戸市埋蔵文化財センター）の協力を



えて、真空凍結乾燥機によって水損史料の乾燥を行いました。6月に乾燥終了後、2007年6月現在に至るまで神戸大学文学部にて保管し、真空凍結乾燥後の料紙の固着を展開し、料紙に付着した泥を落とすなどのクリーニング作業を、大学生・大学院生・市民からなる多くのボランティアによって行いました。また仮目録をとった結果、約1000点の史料があることがわかりました。

乾燥処置を終えた史料は直ちに返却する方針でしたが、日野辺地区の方々のご要望もあって歴史資料としての調査を行う機会をえることができました。調査はまだ完全に終わったわけではありませんが、現用文書も含んでいるために早期の返却が必要と判断し、調整の結果2007年6月17日、日野辺公民館にて返却することにしました。

返却式は、岸本隆男日野辺区長・奥村弘史料ネット代表・大垣豊隆但馬史研究会会長・農座俊一豊岡市教育委員会出石分室長のあいさつのあと、奥村代表から岸本区長へ区有文書目録の贈呈と史料の返却がおこなわれました。その後、区有文書レスキューにも参加した木村修二氏（史料ネット会員）に、区有文書内の「講」関連史料についての講演をいただきました。その後、史料展示・解説をおこない、地区の皆さんも熱心にご覧になっていたのが印象的でした。詳しくは、史料ネット運営委員森脇さんの参加記をごらんください。

史料ネットは、2004年10月発生の台風23号の被災地であった兵庫県内・京都府内で計8件、トータルで段ボール40箱以上の水損史料をレスキューすることができました。しかし、被災後の巡回調査と被災史料の発見、被災史料の保全、修復、整理のいずれの過程をとっても、ボランティア団体としての史料ネット単独ではなしえなかったことばかりでした。いずれも、被災地の住民のみなさんや行政、大学の理解と協力が得られな

神大のボランティアグループ



白紙状態の文書を修復する神大のボランティアグループ

3年前の
自風23号
冷凍保存など苦労重ね

神戸の教員らでつくるボランティアグループ「歴史資料ネットワーク」が、2004年10月の阪神大震災の際に被害を受けた約1000点の史料を修復し、冷凍保存した。修復作業が完了した。被災地をめぐり、冷凍保存するなどの苦労を重ねた。作業に携わった同グループの松正正さん35は、「被災の苦労を重ねた。被災地をめぐり、冷凍保存するなどの苦労を重ねた。被災地をめぐり、冷凍保存するなどの苦労を重ねた。」

豊岡の水損史料1000点修復

17日、展示会

コムスン
県「利用者第一」確認
対策本部初会合、処分逃れ神戸でも

訪問介護士「コムスン」利用サービスを確認した。
県「利用者第一」確認
対策本部初会合、処分逃れ神戸でも

ければ不可能でした。その点では、「民」・「官」・「学」の連携がうまく機能した成果だと評価できると思います。

とりわけ、出石町の場合は、但馬史研究会元会長の前田喜一氏（故人）や同会会員の松本源明氏、そして出石町教育委員会の小寺誠氏らの献身的な協力なしには町内の被災資料調査・保全活動はおこなえませんでした。

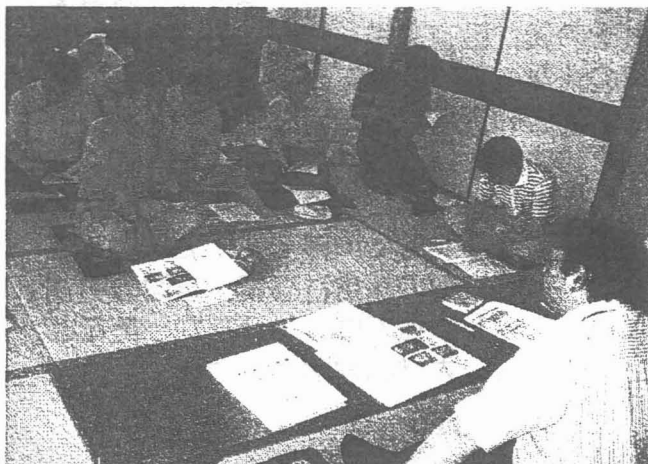
また、史料修復に関しては、(株)西宮冷蔵、兵庫県教育委員会（埋蔵文化財調査事務所魚住分館）や神戸市教育委員会（神戸市埋蔵文化財センター）、滋賀県教育委員会（安土城考古博物館）のご協力、そして神戸大学・京都造形芸術大学・大阪大学・大阪市立大学などの各大学生・院生や、市民の手作業による多くの乾燥ボランティアのご協力をいただきました。このように多くの皆さんのご協力により、水損史料を

▲『読売新聞』2007年6月1日（読売新聞社提供）

保全することができました。関係各位にお礼申し上げたいと思います。

水損史料は、通常その汚れ具合や、悪臭の問題があり、所蔵者によって廃棄されるケースが多かったのですが、この日野辺区有文書は地区の皆さんによって廃棄されず保管されていました。それは、同地区の現用書類だったということのほかに、先祖から伝わってきた大切なものであるという意識があったからこそ遺されたのではないかと私たちは考えています。あのような大水害の際に、保管というご判断をなさった地区の皆さんに敬意を表したいと思います。地区のあゆみをするす貴重な史料として、今後も皆さんによって大切に保存されていくことを期待したいと思います。

（文責・松下正和）



豊岡市出石町日野辺地区区有文書
返還式に参加して

森脇 崇文

去る6月17日、兵庫県豊岡市出石町日野辺区において、2004年10月の台風23号により水損した区有古文書の返還式が行なわれた。この5月から史料ネットの運営に携わるようになったばかりの私にとって、今回の返還式は実際に史料救出活動に関わる初仕事となる。当然ながら、3年前に今回の史料群が救助されたときの様子は実見していないし、その後の史料修復に参加したわけでもない。そんな私が、史料救助活動の区切りとなる重要な式典の記事を書いてよいものか、いささか逡巡するところではあるが、これから史料救助活動に携わっていく者として、新米なりに感じたところを書かせていただきたい。

式典当日、奥村弘代表をはじめとする総勢八名の史料ネット運営委員は、午前11時頃に会場となる日野辺地区公民館へと到着した。梅雨入り直後ということで雨も心配されていたが、幸い天候にも恵まれ、一帯に広がる田園風景が初夏の日差しに美しく映えていたのが印象的であった。

地区の方々から歓迎を受けながら、持参した史料群を運び込み、午後からの式典の準備を進めていく。日野辺地区公民館は、2004年の水害の際に浸水被害を蒙った場所ということだが、それほど低地に立地している印象はうけない。目の前の穏やかな出石川の流れと、現在は綺麗に修繕された公民館の施設を見ていると、本当に床上浸水に及ぶほどの水害が起こったのか、とさえ思えてくる。しかし、床の間の柱を目にした時、私は水害の爪痕をまざまざと見せつけられる思いがした。その柱には、畳から1メートル程の場所でクッキリと水平の線が浮かんでいる。水害の際には、この高さにまで浸水が及んだのだろう。これほ

どの浸水が、他の住宅、ましてやここより低い位置にある田畑にもたらした被害は、どれほどであったか想像もできない。それまでブラウン管越しの世界であった水害の恐怖、自然の脅威を、身に染みて思い知らされることとなった。

返還式は、多数の地区の方々の参加を得て、午後1時半から開始された。今回の史料救助に携わった日野辺区長、豊岡市教育委員会、但馬史研究会、そして史料ネットの各機関からの挨拶がなされた後に、史料ネット会員である木村修二氏より、近世における同地区の講組織についての史料解説が行われ、返還された古文書群の中から関連する史料が展示された。参加した方々は木村氏の講演に熱心に耳を傾け、また展示史料を前にしては史料ネット委員に質問を投げかけつつ、真剣に解説しようとしていた。地区の方々にとって、これらの史料は自らのルーツに直接連なるものだけに、特別な興味と思い入れがあるのだろう。2004年10月の水害に際して、この古文書群が史料ネットに委託されたのは、同年11月に地区の方々によって水損史料の乾燥作業が行なわれていることを史料ネットが把握したのが契機だったと聞いている。常識を超える浸水によって日常生活そのものが脅かされている只中、内容も分からない水浸しの古文書など、例え捨て去られていたとしても誰も責めることはできないだろう。にもかかわらず、地区の方々はこの古文書を復元するべく行動した。それは、この史料群が日野辺地区によって単に「所有されている」のではなく、地区の歴史を伝えるものとして「守り継がれている」ことを如実に物語るのではないだろうか。返還された史料を見つめる熱のこもった眼差しは、そう思わせられるものだった。

式典が終わり、地域の方々総出での見送りを受けて夕方前に出石を出発した。帰路では、水害から3年近くが経過した現在においても、山崩れや道路が崩落した形跡が

生々しく残されている様子を目の当たりにした。今でも片側通行となっている場所もあり、水害の傷痕は未だ過去のものとはなっていないことを思い知らされる。自然の力は、到底人間が抑え込むことができるものではない。その意味で、史料の被災を完全に防ぐことは不可能かもしれない。しかし、人の気持ちと努力次第で、災害にあった史料を可能な限り原形に近い形に復元することは不可能ではない。そのためには、史料がその地域の歴史を伝えるかけがえのないものであり、地域全体で守り継いでいくものだという意識が重要だろう。この日野辺地区区有文書がそうであったように。

災害による史料被害は、起こらないに越したことはない。だが、今回の水害によって日野辺地区と我々史料ネットとの間に交流が生まれた。今回の返還式で、文書を守り継いできてくれた地域の方々が、文書の内容を知り、その価値を再確認する機会となったならば、せめてもの幸いということが出来たのではないだろうか。今後も史料ネットの活動を通じて、被災した史料を救助すると同時に、所有者がその史料と向き合う契機が作られていくことが望まれる。微力ながら、私自身も運営委員の一人として努力していきたい。

(もりわき・たかふみ

／史料ネット運営委員)

吉置 寛 桑斤 辰門
2007年(平成19年)7月2日(月曜日)
(35) 神戸明石三田

記者から／

神戸大などの教員や学生らでつくるボランティアグループ「歴史資料ネットワーク」が6月、2004年10月の台風19号の際に難関市で水損した史料約1000点の修復を終え、地元住民に返還しました。記念展示会には約30人が集い、「こんなきれいになって戻ってくるなんて」とみな歓喜したそうです。

心和ませる修復史料

同ネットは阪神大震災をきっかけに設立され、様々な被災地で古文書の収集、修復に取り組んできました。被災地での史料収集には、非常事態に何を「してよ」として置かれたり、修復作業ではびしょぬれの史料をキッチンペーパーで一枚一枚乾燥させたりと、苦労は尽きないそうです。

でも、同ネット事務局長の松下正和さん(36)は「史料を返還した住民のみならずからは、これから大勢にしていきたいと思っています」と願っています。今後、活動を続けていくと話しています。帰郷した史料が、未だ被災者の心を癒やし、より豊かにしてくれることを願います。(神戸総局 増田博一)

▲『読売新聞』2007年7月2日(読売新聞社提供)

台風水損
地域史料

修復終え1000点返還

出石 神大ボランティア



古文書に見入る住民ら（豊岡市
出石町の日野辺区公民館で）

2004年秋の台風23号「西」を開いた。約260年の教職員や学生ら約300人で、水損した豊岡市出石町の日野辺区公民館の保管文書約1000点の修復作業が終わり、作業に当たった歴史資料ネットワーク（代表 奥村弘・神戸大学文学部教授）が17日、同公民館で文書返還式と史料展示を行った。同ネットワークは阪神大震災で被災した史料の保存・復元を目的として設立した。この日は、関係者約30人が出席。奥村代表から岸本

▲『読売新聞』2007年6月18日
（読売新聞社提供）

6月18日 月曜日 神戸新聞

04年の台風23号で被害 古文書修復し返還

豊岡市出石町に神戸のボランティア



「〇〇四年十月の台風23号で水損した豊岡市出石町の日野辺地区が所有する江戸時代の古文書と約千点、古神・淡路大震災を記録した史料を保全する神戸市内のボランティア団体によって修復された。同地区の日野辺公民館で17日、返還式があり、多数のボランティアの手で修復された史料を地元の住民らが確認、謝り喜ぶ様子（奥村代表）。

大学の若手研究者や、かみ上げなど、この被災した古文書や史料を修復し、返還する。文書を修復し、引き継いでいきたい」と話した。

この日は歴史資料ネットワークのメンバー、奥村弘や奥村の内の約30人が参加した。同ネットワークは阪神大震災で被災した史料の保存・復元を目的として設立した。この日は、関係者約30人が出席。奥村代表から岸本

「一ツ講が六つ存在した」と近くの会社員山本隆義さんとを指摘。「加茂講番記録」(58)は地区にこんな古い歴史史料が残っていたなんて驚き。風習や暮らしぶりなどについてもっと知りたという。天照大神を描いた掛け軸なども展示され、なかつた話していた。

▲『神戸新聞』2007年6月18日（神戸新聞社提供）

<2006 年度活動日誌>

- (2006/6/18) 2006 年度史料ネット総会・水損史料ワークショップ(講習会)
「よみがえれ水損史料～水害に備えて」(於西宮市大学交流センター)
- (2006/7/10) 第 46 回運営委員会
- (2006/8/6,8) 第 8 回「火垂るの墓を歩く会」への協力
- (2006/9/8) 第 47 回運営委員会
- (2006/10/3) 第 48 回運営委員会
- (2006/10/20,21) 第 1 回人と文化遺産保存継承ミーティング・文化財防災サミット IN 山形(於東北芸術工科大学)にて報告
- (松下正和「歴史資料ネットワークの地域遺産保全活動」、
奥村弘「大規模自然災害と地域歴史遺産保全～阪神淡路大震災から現在までの歩み」)
- (2006/10/23) 第 8 回地域資料シンポ準備研究会(於難波市民学習センター第 2 研修室)を共催
- (2006/10/31) 第 49 回運営委員会
- (2006/11/4) 大阪歴史科学協議会 11 月例会
「地域における歴史系博物館の役割～指定管理者制度の導入をめぐって」(於梅田東学習ルーム)を共催
- (2006/11/8) 第 1 回大学巡回水損史料ワークショップ(於大阪大学)
- (2006/12/5) 第 50 回運営委員会
- (2006/12/14) 第 2 回大学巡回水損史料ワークショップ(於大阪市立大学)
- (2006/12/15) 第 9 回地域資料シンポ準備研究会(於大阪市立弁天町市民学習センター)
- (2006/12/17) 第 2 回「歴史系博物館と指定管理者制度」勉強会(於明石市立文化博物館)
- (2006/12/25) 第 33 回被災史料整理(出石町日野辺区有文書仮整理)
- (2007/1/23) 第 51 回運営委員会
- (2007/1/26) 平成 18 年度滋賀県図書館員専門講座(後期)(於滋賀県立図書館)にて報告
(松下正和「地域資料の保存と利用の現場から」)
- (2007/1/29) 第 3 回「文化財の防災計画に関する研究会 震災から美術工芸品をまもる」
(於東京文化財研究所)にて報告(奥村弘)
- (2007/2/4) 第 34 回被災史料整理(出石町日野辺区有文書仮整理)
- (2007/2/23) 第 52 回運営委員会
- (2007/2/24) 史料ネット中世講座「日本国王の港～日明貿易と兵庫津」
- (2007/3/7) 第 10 回地域資料シンポ準備研究会(於大阪市中央公会堂)を共催
- (2007/3/9,10) 第 2 回人と文化遺産保存継承ミーティング(於東北芸術工科大学)への参加
- (2007/3/13) 第 53 回運営委員会
- (2007/3/16) 第 14 回近畿府県公文書館等実務担当者研究会(於京都府総合資料館)にて報告
(松下正和「水損資料の処置方法について」)
- (2007/3/18) 第 2 回「地域史卒論報告会」(於兵庫勤労市民センター)
- (2007/3/19) 第 35 回被災史料整理(出石町日野辺区有文書仮整理)
- (2007/4/25) 第 54 回運営委員会
- (2007/5/15) 第 55 回運営委員会



第23回歴史学入門講座

これからの中世史研究

—比較史および経済史の視点から—

東京大学准教授 桜井 英治氏

日時:2007年7月28日(土)13:30~(開場13:00)

(終了後、懇親会を予定しています)

会場:大阪大学豊中キャンパス
大学教育実践センター

共通教育講義棟大講堂

(阪急宝塚線「石橋駅」駅より
徒歩約15分または
大阪モノレール「柴原駅」より
徒歩約10分)

参加協力費:500円

■入門講座に関するお問い合わせ■

大阪大学日本史研究室内

第23回歴史学入門講座委員会

TEL:06-6850-5101

e-mail:nyumonkoza_osaka@yahoo.co.jp

URL:http://www.geocities.jp/nyumonkoza_osaka/index.html

主催 歴史学入門講座実行委員会

後援 大阪歴史学会・大阪歴史科学協議会



【史料ネットから新刊が出ました！！】

地域社会からみた「源平合戦」

福原京と生田森・一の谷合戦

岩田書院ブックレット H-02

歴史資料ネットワーク(史料ネット) 編

2007 年6月刊

A5判・118 頁・並製本

ISBN978-4-87294-474-7 C1321 ¥1400E

1400 円(税別)



寿永3年(1184)2月7日、源義経が平氏の陣営を奇襲した一の谷合戦は、源平合戦のなかでも、最もよく知られた合戦のひとつであろう。

川合論文では、この一の谷合戦をとりあげ、源平合戦の実態を地域社会との関わりから検討する。従来、地元では、義経が進軍した鶴越のルートや「坂落し」の場所をめぐるさまざまな説がだされているが、本論では、一の谷合戦に地元の人々がどのように関わったのかという視点で、合戦の全体像を捉える。

市沢論文では、地域社会から平氏の福原遷都の意味を考えるために、西摂津・東播磨の平氏勢力圏を復元し、福原京がどういう位置を占めるかについて、地域的な広がりの中から考える。

巻末には、詳細な関連地図と史跡解説を付した。

前著『平家と福原京の時代』(歴史資料ネットワーク編、岩田書院、2005 年)に続く成果。

2005 年9月に開催された「シンポジウム源平合戦—伝承された戦いの虚実」を再編集。

【主要目次】

このブックレットができるまで——藤田 明良

生田森・一の谷合戦と地域社会——川合 康

内乱の諸段階と生田森・一の谷合戦／生田森・一の谷合戦の「城郭」戦／民衆の戦場への動員／摂津武士の動員と摂津国惣追捕使多田行綱／軍勢を先導する「案内者」／鶴越と多田行綱

南北朝内乱からみた西摂津・東播磨の平氏勢力圏——市沢 哲

南北朝内乱と西摂津・東播磨—山田荘とその近辺の地勢学—／西摂津・東播磨の平家勢力圏—平家のテリトリー—の縦軸と横軸—／西摂津・東播磨の平家勢力圏の歴史的性格

生田森・一の谷合戦史跡地図——樋口健太郎

史料ネット NEWS LETTER No.50 2007 年 7 月 31 日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日の午後 1 時～5 時)

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/> e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp